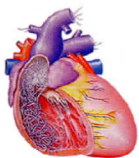


犬糸状虫(フィラリア)症予防薬の投与には、事前検査により犬フィラリアが感染していない事を確認する必要があります。

犬フィラリア症のライフサイクルと予防のしくみ

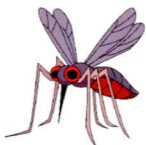
1. 犬フィラリア症はどんな病気?

1. フィラリアの成虫が右心室と肺動脈に寄生することによって起きる静脈系の循環不全。
2. 犬フィラリアの排泄・分泌抗原と抗体複合体の結合・沈着による炎症反応と自己組織障害。



2. どうやって感染するの?

フィラリア感染犬の吸血により蚊に侵入したマイクロフィラリアは、蚊の体内で感染性のフィラリアの幼虫まで成長します。そのような蚊が別の犬を吸血すると、新たな感染が発生し、フィラリアの幼虫は犬の体内で成虫となります。



3. 発症するとどんな症状がみられるの?

急性症(大静脈症候群):元気消失、血尿などがみられ、一晩で死にいたることもあります。
慢性症:発咳からはじまり、呼吸困難、貧血、腹水、肺水腫、肺高血圧症、心不全症状などがみられます。

4. 予防の前には何を?

駆虫薬によってフィラリアの幼虫が死亡すると、犬がショック症状を起こすことがあるため、**投薬前にフィラリアが寄生していないことを確認する必要があります。**



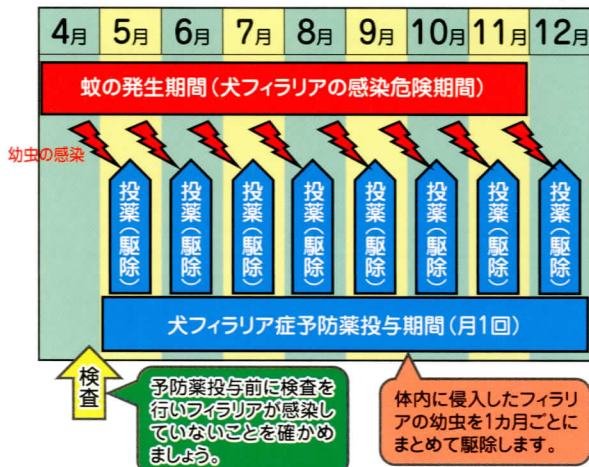
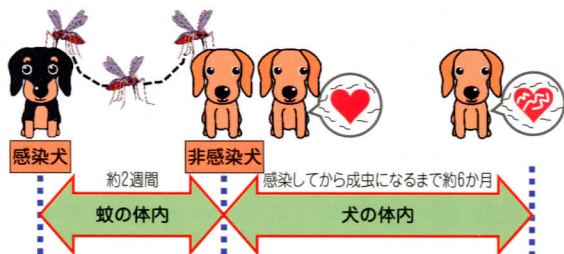
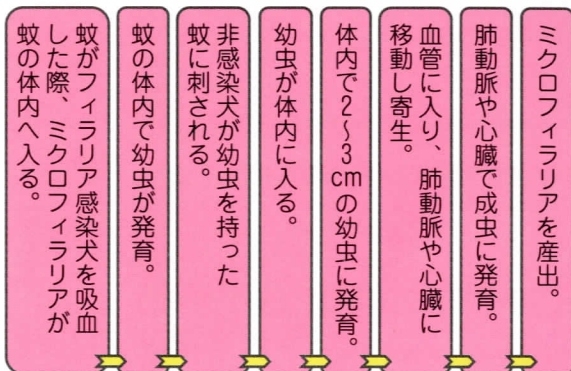
5. 予防するにはどうしたらいいの?

毎年、蚊が発生する時期(5月から11月:地域によって異なる)にフィラリアの幼虫を駆虫する予防薬を投与します。

6. 予防薬を投与していても感染することがあるの?

次のような場合に感染することがあります。

1. 投薬予定日より遅れたり、忘れてしまった場合。
2. 早めに投薬時期を終了してしまった場合。
3. 最後の投薬を終えてから感染した場合。
4. 犬が薬を吐き出したことに気づいていない場合。



注意: 地域によって蚊の発生時期が異なりますので、詳しくは病院の指示に従って下さい。